



やっほー！
! ー



2022-1 次隊 岡崎 友里

だれひとりのこせかいむ 誰一人取り残さない世界に向けて

7月になり、1学期も残りわずかとなりましたね。ちなみに、ヨルダンでは6月中旬で年度が修了し、学校や学年によって多少の差がありながらも、夏休みに入りました。ほとんどの学校が夏休みに入ったであろう6月20日、実はこの日は、国際連合総会で決められた「世界難民の日」でした。今回は「難民」について取り上げさせてください。

※一部ふりがなを付けられませんでした。読めない部分は、大人の人に聞いたり調べたりしてください。

WORLD REFUGEE DAY
20 JUNE

難民とは？

・難民とは、「難民条約」（国際条約）で定められた人々を指します。世界では1億840万人（2020年）の人が紛争や迫害などが原因で家を追われ、そのうち難民は約3530万人とされています。世界の74人に1人、全世界人口の1%以上は故郷を追われています。（UNHCRホームページより）

※QRコードをスキャン、または、クリックすると、詳しく知ることができます♪

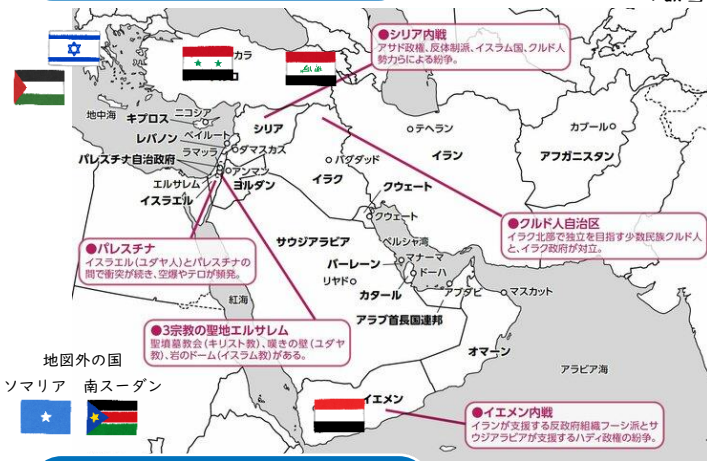


16人に1人



・ヨルダンでは、周辺国のシリアを中心に、イエメン、イラク、スーダンなどからの難民とさらにパレスチナ難民を受け入れています。その数はヨルダンの人口の16人に1人の割合と言われ、世界で4番目に高い割合となっています。（UNHCRグローバルトレンドレポート2022より）

※QRコードをスキャン、または、クリックすると、詳しく知ることができます♪ただ、全て英語です…。



ヨルダン国内での難民の出身国は最も多いのがパレスチナで、国連において難民支援を行うのは基本的にUNHCR（国連難民高等弁務官事務所）です。しかし、パレスチナ難民についてはUNRWA（国連パレスチナ難民救済事業機関）という別の組織が支援を担当しています。パレスチナを除いて、多い順に抜粋するとシリア、イラク、スーダン、イエメン、ソマリアとなっています。

（参照：World Visionホームページ、井田仁康・編著『読むだけで世界地図が頭に入る本』）



10か所

・ヨルダンで生活する難民の中でも、一番多く受け入れられているパレスチナ難民の人たちが暮らすためにUNRWA（国連パレスチナ難民救済事業機関）が支援と保護を行うキャンプという生活空間が国内に10か所ほどあります。（UNRWAホームページより）

※QRコードをスキャン、または、クリックすると、詳しく知ることができます♪



本当に様々な国の難民の人が生活しているため、改めて中東においてヨルダンという国が周辺国の中でも穏やかで重要な役割を果たしていることが分かります。ただ、多くの難民を受け入れる一方でヨルダンは財政難でもあり、難民の人たちが安心して生活を送るためには、ヨルダン国外からの保護や支援が欠かせません。そのために、世界中から様々な人が、様々な形で自分たちにできることを行っています。海外協力隊もその一つ。隊員によっては、難民の方々が暮らすキャンプで活動し、難民の方々と大きな関わりをもつ人がいます。

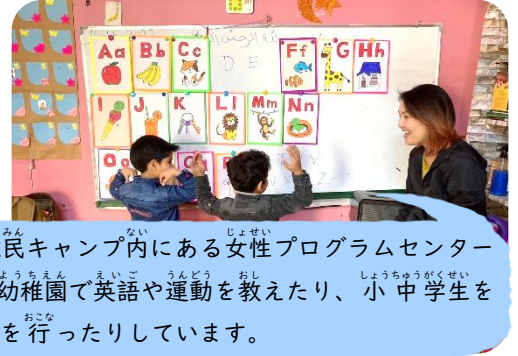


そんなキャンフで活動中の隊員は…

マハさん。大阪府出身。アラブのお母さんが作るアラブ料理が大好き。一番好きなアラブ料理はマクルーバ。



その名も、マハ（アラビア語の名前です。）



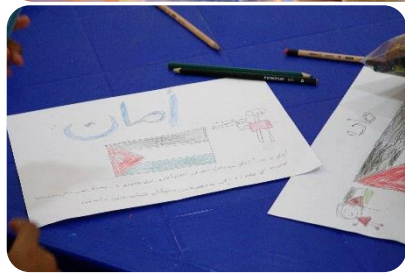
ヨルダンのパレスチナ難民キャンプ内にある女性プログラムセンターに所属し、センター併設の幼稚園で英語や運動を教えたり、小中学生を対象にしたアクティビティを行ったりしています。

ヨルダンのマダバにあるキャンプの1つで活動をするマハさん。今回は「世界難民の日」に合わせて、子どもたちに「難民」について考えてもらうアクティビティを実施すると聞いて、その様子を見せてもらいました。



キャンプ内に入ってみると、外とは違った雰囲気でした。四角い家が立ち並び、細い道に入るとどこを歩いているのかわからなくなるような、似ている通りがいくつもありました。

マハさんが活動するセンターは、学校ではないので、子どもたちは自由参加です。事前の呼びかけに対して約10人の子どもが集まり、アクティビティが行われました。最初に「世界難民の日なんだよ。難民について



知っていることはある？」と尋ねると、子どもたちが次々と答えました。「パレスチナだけでなく、エジプトやシリアからも難民が来ているよ。」「銃で撃たれたり、家を壊されたりするから違う国へ行くの。」「とそこにいた小学1年生から中学1年生みんなよく知っていて、私たちのほうが子どもたちから教えてもらいました。

最後は、一人一人が考えたことを絵や言葉にして発表します。「どうしてこの絵を描いたの？」と聞くと、「この子は安全な場所で暮らしたいと願っているの。」「と話す子や、「最初は悲しかったけど、友達と一緒に暮らせるようになったからうれしいの。」「と話す子もいました。



私にとって、こうしてじっくりと難民キャンプで暮らす子どもたちと過ごす経験は、あまりありませんでした。そのため、彼らの家族がどういった経験をしたのだろうと子どもたちの姿を通して考える機会になりました。アクティビティ中は真剣なまなざしを見せていましたが、それ以外の時間は愛嬌たっぷりに笑顔で挨拶をしたり、「また来てね!」と言ってハグをしてくれたりしました。子どもたちがこれからも安心して生活をし、少しでも自分で選択をして臨む未来を歩んでいけるように自分にできることがあればしていきたいと改めて思いました。

ヨルダンに限らず、世界中の難民のために日本の企業も取り組んでいます。例えば、山口県を代表する世界のUNIQLOも、支援活動をしています。

また、世界で活躍するMIYAVIさんがUNHCRの親善大使をされています。気になったら、ぜひ見てみてください。



Let's talk in Arabic のスペースが無くなりました…

では、また次回! مع السلامة

